

火災の状況(平成8年)

| 火災件数 | 建物火災 | | | | | | | 焼失面積(m ²) | | 損害額(千円) | 車両火災 | | その他の火災 | | 死傷者数 | | 損害額計(千円) |
|------|------|----|-----|----|----|-----|-----|-----------------------|---------|---------|---------|-------|--------|----|------|----|----------|
| | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | 爆発 | 床面積 | 表面積 | 損害額(千円) | 損害額(千円) | | 損害額(千円) | 死者 | 傷者 | | | | |
| 1月 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2,396 | 1 | 30 | 1 | 0 | 0 | 3 | 2,426 |
| 2月 | 15 | 4 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 138 | 0 | 4,522 | 4 | 989 | 7 | 0 | 0 | 1 | 5,511 |
| 3月 | 5 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 54 | 1 | 20,920 | 1 | 39 | 2 | 0 | 0 | 0 | 20,959 |
| 4月 | 7 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 10 | 0 | 530 | 1 | 115 | 4 | 0 | 0 | 1 | 645 |
| 5月 | 5 | 4 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 9 | 0 | 366 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 366 |
| 6月 | 3 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 418 | 1 | 322 | 0 | 0 | 1 | 0 | 740 |
| 7月 | 4 | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 60 | 3 | 8,098 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 8,098 |
| 8月 | 6 | 3 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | 2 | 160 | 1 | 2,257 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2,417 |
| 9月 | 4 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 10 | 2 | 270 | 1 | 0 | 0 | 0 | 280 |
| 10月 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 500 | 1 | 0 | 1 | 0 | 500 |
| 11月 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 11 | 1 | 326 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 326 |
| 12月 | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 744 | 0 | 0 | 3 | 19 | 0 | 0 | 763 |
| 計 | 65 | 30 | 4 | 0 | 8 | 17 | 3 | 290 | 11 | 38,490 | 12 | 4,522 | 23 | 19 | 3 | 11 | 43,031 |

火災に備える わが家の火災予防対策

生活の中に防火の習慣を

●寝る前に必ず火の元を確認する

- ①ガスの元栓、こたつのコンセントなど、寝る前には火の元を点検して回る。
- ②「ガスコンロの元栓」など点検項目を書いたメモを壁などに貼り、それを見ながら確認するのも一つの方法。

●お年寄りの部屋は1階に

- ①「廊の2階」といい、火災では2階での死亡事故が多い。お年寄りや子ども、病人などの部屋はできるだけ1階に。
- ②お年寄りには枕元やトイレなど、行動範囲に応じて複数の呼び鈴を準備し、万一の場合に備える。
- ③ガスの元栓や電気器具のコンセントなど、夜寝る前に家族がお年寄りの部屋を確認する習慣を。
- ④お年寄りを家に残して外出するときは必ず近所に声をかける。

消火の備えをしておく

- 消火器、三角バケツなどの消火器具を備える。
- 風呂の水をくみ置きしておくなど、身近な水の用意をしておく。
- 消火器の使い方など、市や消防機関などで行う消防訓練には積極的に参加する。
- 簡易型火災警報器などを設置して、火災を早く発見する備えを。

消火器の使い方(粉末・強化液消火器の場合)

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。●火災にはまともに正対しないように。●やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。●燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

出火原因別防火のポイント

たばこ

寝たばこやたばこの投げ捨てはしない
建物火災の出火原因の約1割がたばこです。「火源の転倒、落下」「投げ捨て」により出火するケースが目立ちます。
①喫煙場所を決めておく②灰皿には水を入れておく③必ず消火を確認する

ストーブ

ストーブには、燃えやすいものを近づけない
ストーブを洗濯物の乾燥機代わりに使用したために出火するケースが目立ちます。ストーブを本来の目的以外に使用するのは厳禁です。また、ストーブの周辺は常に整理整頓し燃えやすいものを近づけないようにしましょう。

たき火

風の強いときは、たき火をしない
たき火による火災も少なくありません。出火原因の約5割が火の粉の飛び火によるもの。風の強いときは行わないなど、十分な注意が必要です。

火遊び

子どもはマッチやライターで遊ばない
子どもの手の届くところにマッチやライターを放置しないこと。花火の際には必ず大人が付き添い、消火用水の用意を忘れずに。また、子どもには火の怖さを徹底して教えておきましょう。

放火

家のまわりに燃えやすいものを置かない
放火による火災も後を絶ちません。家のまわりに燃えやすいものを置かない、ごみは収集日の当日に出すなど、放火に狙われにくい環境づくりが大切です。

こんろ

天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
建物火災の原因で一番多いのが、こんろからの出火です。出火原因のほとんどが消し忘れです。その場を離れるときは必ず火を止めましょう。



3月1日(土)~7日(金)は 春の火災予防運動です

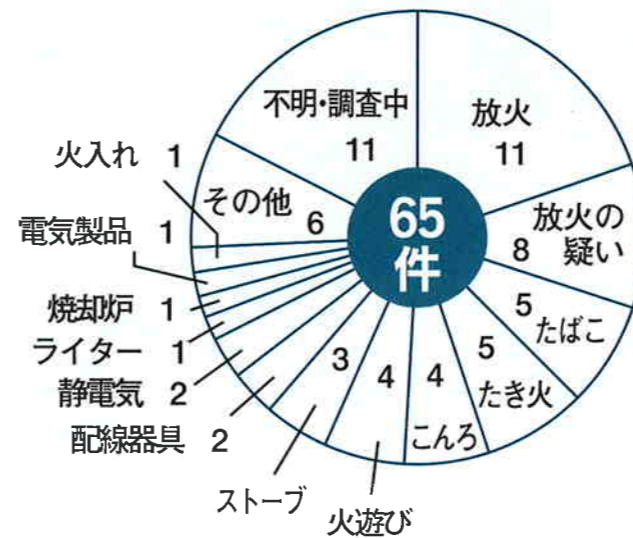
平成8年火災件数
65件
(前年比+1件)

建物火災 30件

車両火災 12件

その他火災 23件

火災原因別件数



建物火災における焼損棟数

| | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | 合計 |
|-----|----|----|-----|----|----|
| 火元棟 | 4 | 0 | 7 | 16 | 27 |
| 類焼棟 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 合計 | 4 | 0 | 8 | 17 | 29 |

(参考)焼き損傷の無い爆発 3件

「便利さに慣れて忘れておられる火のこわさ」を統一標語に、全国一斉に春の火災予防運動が行われます。この季節は空気が乾燥し、物が燃えやすくなることから「火災予防運動」を展開して、市民一人ひとりが各事業所などでも防火の意識を持ち、火災予防思想の一層の普及を図るとともに、尊い生命や財産の損失を防ぐことを目的に行われるものです。

火災の多くは、「まさか…こんなことで」「ついウツカリ」「このくらいなら大丈夫」といった不注意や慣れによる過信から出火しています。そのうえ発見の遅れや初期消火の失敗などが重なり大火となったものがほとんどです。また、火災発生の原因を分析してみますと、火災になるかならないかの分岐点は、ちよつとし

た注意力にあります。あわただしく日常生活を過ごしていると、身近なものや慣れ親しんでいるものには、注意力がマヒして、惰性に流されることが多いものです。

火災予防は、自分自身のことであつて、一度火災が発生してからは言い訳しても済まされるものではありません。

昨年1年間に狭山市では65件の火災が発生しています。その主な原因は、放火・放火の疑い、たばこ、たき火、こんろや火遊びなどが上位を占めています。

皆さんも、身の回りをもう一度チェックしてみましょう。

問い合わせ消防本部予防課へ
53-7113

| 地区別火災件数 | 曜日別火災件数 | 管轄分団別火災件数 |
|---------|---------|-----------|
| 入間川 16 | 日曜日 6 | 1分団 11 |
| 入間 11 | 月曜日 9 | 2分団 7 |
| 堀兼 7 | 火曜日 8 | 3分団 11 |
| 奥富 5 | 水曜日 5 | 4分団 9 |
| 柏原 6 | 木曜日 9 | 5分団 8 |
| 水富 13 | 金曜日 12 | 6分団 6 |
| 新狭山 3 | 土曜日 16 | 7分団 13 |
| 狭山台 4 | 合計 65 | 合計 65 |
| 合計 65 | | |